

日蓮大聖人御書全集

おうにちどのごへんじ

王日殿御返事

新版
1716

おうにちどのごへんじ
王日殿御返事

こうあん ねん 弘安 3 年 ('80)
さい 59 歳
おうにち 王日

べんのぼう びんぎ さんびやくもん こんどにひやくもん た お
弁房の便宜に三百文、今度二百文、給び畢わんぬ。

ほとけ まこと とうと もの むかし とくしようどうじ すな
ほとけ まこと とうと もの むかし とくしようどうじ すな

仏は真に尊くして物によらず。昔の徳勝童子は、沙

もちい ほとけ くよう たてまつ あいくだいおう う

の餅を仏に供養し奉って阿育大王と生まれて、

いちえんぶだい しゆ ひんによ わ 頭 下 あぶら な

一閻浮提の主たりき。貧女の我がかしらをおろして油と成

しゆみせん ふ かぜ ひ 消

せしが、須弥山を吹きぬきし風もこの火をけさず。されば、

に さん がもく にほんこく し ひと くに よ しつぼう とう

この二・三の鵝目は、日本国を知る人の国を寄せ、七宝の塔

とうりてん 組 上 勝

を忉利天にくみあげたらんにもすぐるべし。

ほけきよう

いちじ

だいぢ

ばんぶつ

しゅつしよう

いちじ

法華經の一字は大地のごとし、万物を出生す。一字は

たいかい

しゅる

おさ

いちじ

にちがつ

してんげ

大海のごとし、衆流を納む。一字は日月のごとし、四天下を

照

いちじへん

つき

つきへん

ほとけ

いね

てらす。この一字變じて月となる。月變じて仏となる。稻

へん

なえ

なえ

へん

くさ

くさへん

こめ

は變じて苗となる。苗は變じて草となる。草變じて米とな

こめへん

ひと

ひとへん

ほとけ

によにんへん

みよう

る。米變じて人となる。人變じて仏となる。女人變じて妙

いちじ

みよう

いちじへん

だいじよう

しゃかぶつ

の一字となる。妙の一字變じて台上の釈迦仏となるべし。

なんみようほうれんげきよう

なんみようほうれんげきよう

きようきようきんげん

南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經。恐々謹言。

にちれん

かおう

日蓮 花押

おうにちどの

王日殿